

第2問 微分法・積分法

$$f(x) = x^3 - x.$$

関数 $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ は

$$f'(x) = \boxed{3}x^2 - \boxed{1}$$

$$= 3\left(x + \frac{\sqrt{3}}{3}\right)\left(x - \frac{\sqrt{3}}{3}\right)$$

である. $f(x)$ の増減は次の表ようになる.

x	...	$-\frac{\sqrt{3}}{3}$	...	$\frac{\sqrt{3}}{3}$	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$\frac{2\sqrt{3}}{9}$	↘	$-\frac{2\sqrt{3}}{9}$	↗

よって, 関数 $f(x)$ は,

$$x = \frac{\sqrt{\boxed{3}}}{\boxed{3}} \text{ で極小値 } \frac{\boxed{-2}\sqrt{\boxed{3}}}{\boxed{9}}$$

をとり,

$$x = \frac{\boxed{-}\sqrt{\boxed{3}}}{\boxed{3}} \text{ で極大値 } \frac{\boxed{2}\sqrt{\boxed{3}}}{\boxed{9}}$$

をとる.

点 $(1, f(1))$ における曲線 $y = f(x)$ の接線 ℓ の方程式は,
 $f(1) = 0, f'(1) = 2$ より

$$y = 2(x - 1) + 0$$

すなわち

$$y = \boxed{2}x - \boxed{2}$$

である.

$$g(x) = px^2 - qx \quad (p \neq 0) \text{ より}$$

$$g'(x) = 2px - q$$

である.

放物線 $y = g(x)$ が点 $(1, f(1))$ において ℓ と接するので,
 $f(1) = g(1)$ より

$$p - q = \boxed{0} \quad \dots \textcircled{1}$$

であり, $f'(1) = g'(1)$ より

$$\boxed{2}p - q = \boxed{2} \quad \dots \textcircled{2}$$

である. ①, ②より

$$p = \boxed{2}, \quad q = \boxed{2}$$

であり, $g(x) = 2x^2 - 2x$ である.

方程式 $f(x) = g(x)$ を解くと

$$x^3 - x = 2x^2 - 2x$$

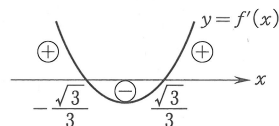
$$x^3 - 2x^2 + x = 0$$

← 導関数

$$(x^n)' = nx^{n-1} \quad (n \text{ は正の整数}),$$

$$(c)' = 0 \quad (c \text{ は定数}).$$

← $f'(x)$ の符号の変化は $y = f'(x)$ のグラフをかくとわかりやすい.



← 接線の方程式

点 $(t, f(t))$ における曲線
 $y = f(x)$ の接線の傾きは $f'(t)$ で
 あり, 接線の方程式は

$$y = f'(t)(x - t) + f(t)$$

である.

$$x(x-1)^2=0$$

$$x=0, 1$$

である。よって、曲線 $y=f(x)$ と放物線 $y=g(x)$ の共有点のうち点 $(1, f(1))$ でない方の点の x 座標は 0 である。

$0 < t < 1$ のとき

$$\begin{aligned} f(t)-g(t) &= (t^3-t)-(2t^2-2t) \\ &= t(t-1)^2 > 0 \end{aligned}$$

であるから、 $f(t) > g(t)$ が成り立つ。 又 に当てはまるものは

② である。

$0 < t < 1$ のとき、線分 AB の長さを $h(t)$ とすると

$$\begin{aligned} h(t) &= f(t)-g(t) \\ &= t^3-2t^2+t \end{aligned}$$

であるから

$$\begin{aligned} h'(t) &= 3t^2-4t+1 \\ &= (3t-1)(t-1) \end{aligned}$$

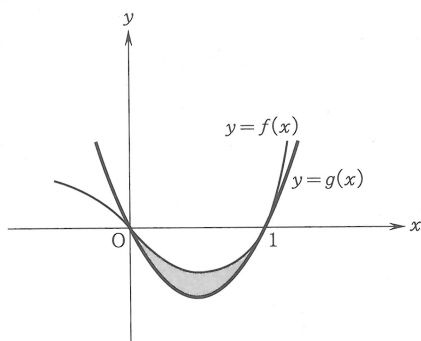
である。

$0 < t < 1$ における $h(t)$ の増減は次の表のようになる。

t	(0)	...	$\frac{1}{3}$	...	(1)
$h'(t)$		+	0	-	
$h(t)$	(0)	↗	$\frac{4}{27}$	↘	(0)

よって、 t が $0 < t < 1$ の範囲を動くとき、線分 AB の長さの最

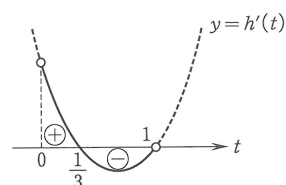
大値は $\frac{4}{27}$ である。



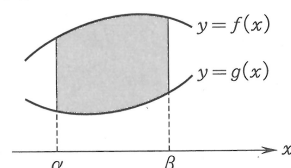
$0 < x < 1$ において $f(x) > g(x)$ である。曲線 $y=f(x)$ と放物線 $y=g(x)$ で囲まれた部分は上図の影の部分であり、その面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_0^1 \{f(x)-g(x)\} dx \\ &= \int_0^1 (x^3-2x^2+x) dx \end{aligned}$$

← $h'(t)$ の符号の変化は $y=h'(t)$ のグラフをかくとわかりやすい。



面積



上図の影の部分の面積は

←
$$\int_{\alpha}^{\beta} \{f(x)-g(x)\} dx$$
 である。

$$\begin{aligned}
 &= \left[\frac{1}{4}x^4 - \frac{2}{3}x^3 + \frac{1}{2}x^2 \right]_0^1 \\
 &= \frac{1}{4} - \frac{2}{3} + \frac{1}{2} \\
 &= \frac{\boxed{1}}{\boxed{12}}
 \end{aligned}$$

である。

← 不定積分

$$\int x^n dx = \frac{1}{n+1} x^{n+1} + C.$$

(ただし, n は 0 または正の整数であり, C は積分定数)